

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和6年3月27日
九州運輸局

評価対象事業名: 新型輸送サービス導入支援事業(AIオンデマンド交通の導入)

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		③事業実施の適切性	④目標・効果の達成状況	⑤事業の今後の改善点	評価結果	
小郡市	・小郡市宝満川右岸地区(小郡・大原・東野・三国・のぞみが丘小学校区)において、AIオンデマンドシステム「のるーと」を導入し、AIオンデマンドタクシー「のるーと小郡」の運行を開始した。	A ・事業が計画に位置づけられたとおり、概ね適切に実施された。	A ・令和5年11月末時点で利用者数が100人/日程度であり、数値目標である200人/日には届いていない状況ではあるが、アプリ利用者説明会等を実施し、新規利用者の獲得を目指している。 ・令和5年10月にAIオンデマンドシステム「のるーと」の導入を完了し、11月末時点で1,300人程度の利用登録があり、計画に位置付けられた目標に近づきつつある。 ・「のるーと」の導入により、ドアtoドア型の運行による校区住民の利便性向上と移動支援の確保を図ることができた。また、距離別運賃制度により、短距離の移動が多くなり、公共交通軸(西日本鉄道・甘木鉄道)の利用増による相乗効果が期待される。	今後は数値目標の達成に向け、利用者アンケートを実施し、具体的なニーズを運行内容に反映させることで、利便性の向上と新たな公共交通手段としての定着を図る。	・自己評価にあるとおり、計画通り適切に実施され、概ね目標を達成している。 ・今後はアンケート調査結果等を事業に反映させることで、持続可能な公共交通サービスとして利用者に定着することを期待する。	

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和6年3月27日
九州運輸局

評価対象事業名: 地域交通キャッシュレス決済導入支援事業

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		③事業実施の適切性	④目標・効果の達成状況	⑤事業の今後の改善点	評価結果	
熊本市交通局	「手ぶら」「顔パス」で熊本市電に乗車が可能となる顔認証の実証実験を実施。 システム構築及び機器設置が完了し、令和5年12月20日から実証実験を開始している。令和6年3月31日まで実施し、結果を検証したうえでその後の本格導入を検討する予定である。	A 交付申請時の計画通り事業を適切に実施している。	B 実証実験中であり、現時点で目標・効果の達成状況は確定していない。 なお、1/31時点では、顔認証決済(アプリ「BANKIT」を用いた都度運賃払い)の登録者数は既に目標を達成しているが、モバイル定期券ユーザー(アプリ「QUICKRIDE」を用いたモバイル定期券連動)の登録者数は目標に達していない。 ※1/31時点の状況 登録者数 モバイル定期券:42名、顔認証決済:154名 (目標値:モバイル定期券100名、顔認証決済50名)	現時点では評価が困難であるため、今後の目標値達成状況やアンケート調査等による検証結果から改善点を洗い出していく予定。 なお、モバイル定期券ユーザーの登録者数が目標達成していないのは周知不足が一つの要因として考えられるため、メール送信やアプリ画面への文言追加などにより周知を強化し、目標達成を目指したい。	・自己評価にあるとおり、計画通り適切に実施され、概ね目標を達成している。 ・今後は既存キャッシュレスとの共存や、利用者のみならず乗務員に対するアンケート調査結果等を踏まえた改善内容を事業に反映することで、持続可能な公共交通サービスとして利用者に定着し、他地域にも横展開できる取組となることを期待する。	

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和6年3月27日
九州運輸局

評価対象事業名: 地域交通データ化推進事業

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		③事業実施の適切性	④目標・効果の達成状況	⑤事業の今後の改善点	評価結果	
九州産交バス株式会社	熊本地域で運用しているバスロケーションシステムにおいて、MaaSアプリへの静的データ(GTFS-JP)の受け渡しをダイヤ改正日まで遅れることなく反映させるため、静的データを複数世代を管理できるように一部改修を行う。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、概ね適切に実施された	A 現在のバスロケーションシステムの機能向上として、新規系統や運賃に関する情報を登録できるよう改修を行い、データ提供先であるMaasアプリでのダイヤ改正データを遅滞なく反映できるようになった。	GTFSデータの活用先が増えることを期待する	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価にあるとおり、計画通り適切に実施され、目標を達成している。 ・今後はGTFSデータの活用先について新たな開拓を試みることで、持続可能な公共交通サービスとして利用者に定着することを期待する。 	

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和6年3月27日
九州運輸局

評価対象事業名: 新モビリティサービス事業計画策定支援事業

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		③事業実施の適切性	④目標・効果の達成状況		⑤事業の今後の改善点	
鹿児島市	鹿児島市谷山地域において、AIオンデマンド交通実証実験を実施し、地域の実情に応じた新たな交通手段の導入可能性について検証を行う。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、概ね適切に実施された。	A ・令和5年11月20日から実証実験を開始し、6年1月20日時点で延べ369人(平均7.2人/日)の利用があった。 ・6年1月10日から2月5日の期間でアンケート調査を実施しており、計画に位置付けられた目標を概ね達成する見込み。	・アンケート調査の結果を踏まえ、6年度に有料の実証実験及び住民意向等調査等を実施する。 ・これらの結果を踏まえ、7年度に交通手段最適化方針を決定するとともに新モビリティサービス事業計画を策定する。	・自己評価にあるとおり、計画通り適切に実施され、概ね目標を達成している。 ・今後はアンケート調査結果等を事業に反映させることで、持続可能な公共交通サービスとして利用者に定着し、新モビリティサービス事業計画の策定につながることを期待する。	